

# 令和元年度事業報告

特定非営利活動法人ゆう

## 令和元年度全体総括

NPO法人ゆうは、スペシャルニーズのある方々とその家族が地域でありのままに自分らしく暮らしていくための取り組みを続けています。ゆうでは、障がい理解や科学的に実証されている手法を用いて、一人ひとりへの配慮や支援を行っています。

ゆうの各事業所では、現場責任者やスタッフが奮闘しゆうらしい支援が展開されています。一人ひとりのスタッフが、理念や行動指針を基に、自ら考え実践する日々の支援が、ご家族やご本人とともに成長することにつながっています。多くの笑顔、感謝の言葉を頂くことのできた1年でした。毎月発行しているゆうゆう通信にそのことが見て取れます。

法人本部は、こういった各事業の基盤をしっかりとしたものにしていくために、事業の安定運営を目標に行ってきました。社会をめぐる情勢は変化に富んでいます。ゴールデンウィークが長くなり、年末年始もいつもよりも長い休暇でした。消費税の増税も10%となりました。2月3月には新型コロナウイルスの流行により事業の不安が一気に増しました。そのような中、各スタッフの創意工夫でご家族・ご本人に必要なサービスを考え、事業を続けています。

一方、今年度の短期目標に関しては、どの目標も未達成となってしまいました。事業所数が増える中で本部運営の充実を図ることの課題がより鮮明になってきたように感じます。中長期計画では、施設建設や育成システムなど、重要なミッションが掲げられています。今年度の課題は、次年度への持ち越しとなりますが、本部事務局の体制を見直して実施していきたいと思えます。

現在、新型コロナウイルスの猛威の中。社会のありようも変化しようとしています。そのような中、安定的な運営ができ、黒字化できたことこれは大きな成果です。理念を基にありのままに自分らしくを実現するためには、社会の変化にも柔軟に対応しながら一歩先を行く実践を行っていきたくです。

理事長 豊田和浩  
令和2年3月31日

---

## <ゆうが活動の柱としている考え>

### 理念「ありのままに、自分らしく」

スペシャルニーズのある方の想いに沿ったサポートをします。

スペシャルニーズのある方にあたたかいまちづくりを目指します。

スペシャルニーズのある方の支援を、ご家族とともに考えていきます。

スペシャルニーズに関する情報発信とネットワーク作りをします。

---

## スタッフ行動指針

NPO法人ゆうスタッフは以下の行動指針に沿って支援・活動を行っています。

1. 利用者・家族・スタッフ・地域の方々など、すべての人を尊敬し尊重する姿勢を持ちます。
2. 利用者のありのままを受け入れ、本人主体の支援を行います。
3. 利用者の将来を見据えた支援を行います。
4. 利用者の心の声を聞き、強みや得意を活かした安心感のあるかわり方を、本人・家族とともに考えます。
5. 自分の仕事に誇りと自信を持ち、向上心を忘れず、変化を恐れず行動します。
6. 思いやりや気配りをもって、チームで支援を行います。
7. 自分のふるまいが、あたたかい地域づくりにつながっていることを常に意識します。

## 令和元年度の事業

令和元年度事業は以下の体制で行った。

### 人づくりまちづくり部門

#### 福祉啓発事業

- 福祉相談・個別療育相談・家庭療育指導
- 講師・アドバイザー派遣
- 講演会など 福祉フォーラム
- 各種学習会  
まなびん、おうちでできるお膳立て、ペアレントトレーニング
- 市民活動団体・研究会の事務局委託  
自閉症啓発キャラバン Swing、穂の国 PECS 研究会
- 行政からの委託事業（ペアレントトレーニング、新城市保育士研修など）
- ゆうキャラバン隊

### ボランティア部門

#### 余暇文化活動援助事業

- きょうだいの会

### 直接支援部門

- ゆうヘルパーステーション（短期預かり、福祉移送、行動援護、移動支援）
- ゆうサポートセンターどーや（生活介護）
- ゆうサポートセンターとことこ（児童発達支援）
- 豊川市児童発達支援施設ひまわり園（児童発達支援、保育所等訪問支援）\* 指定管理
- ゆうサポートセンター（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）
- 相談支援 Kids ふぁ～すと（児童相談支援）
- ゆうショートステイとれ☆きゃん（短期入所、日中一時支援）

## 本部事務局

- 法人事務管理

## 人づくりまちづくり部門・ボランティア部門

### 《福祉啓発事業》

#### 福祉相談・個別療育相談・家庭療育指導

相談担当者 5名

有料の相談及び家庭療育指導（ご家族の希望で学校や園への訪問を含む）

#### 講師派遣

- ▶ 依頼のあった福祉施設、行政機関、学校等に講師を派遣した。（計 42 回）
  - 学校・教育関係・行政 23 回（豊川市子育て支援課、新城市こども未来課、法香院、豊川工業高校）
  - 保育園・療育関係 7 回（北部保育園、発達支援センターおひさま、中部保育園、天王保育園、さくら保育園、代田保育園、三上保育園）
  - 福祉関係 3 回（子育てネット、NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク、豊川市児童発達支援事業所連絡会）
  - 強度行動障害支援者研修関係 4 回
  - 児童発達支援管理責任者研修 5 回

#### アドバイザー派遣

- ▶ 依頼のあった福祉施設、学校等にアドバイザーを派遣した。（計 14 回）
  - とよかわ子育て広場MAH発達相談 11 回
  - 学校・行政関係 3 回（新城市こども未来課、桜町小学校）

#### 学習会・交流会

- ▶ まなびん 8 回 延べ 75 名
- ▶ おうちでできるお膳立て 5 回コース 延べ 51 名
- ▶ ペアレントトレーニング 5 回コース 延べ 87 名

#### ゆうキャラバン隊

- ▶ 学校でのキャラバン活動 福祉実践教室など（実施なし）
- ▶ えがおフェスへの参加（発達障がい障害疑似体験、支援グッズ紹介）

## 《余暇文化活動援助事業》

### きょうだいの会

障がいや発達につまづきのあるきょうだいがいる子どもたちが、普段できないいろいろな体験をし、きょうだいのことを普通に話せる友達作りを目的に、年3回行った。

- ウィンナー作りに挑戦しよう！
- バンガローにお泊りしよう
- クリスマス会

---

### 外部イベント

- こどもがわらうとせかいがわらう
- えがおフェス 2019

## 直接支援部門

公的支援の直接支援部門の報告は各事業所より以下の通り。

| 事業所名  | ゆうヘルパーステーション  | 管理者   | 豊田 和浩  |
|---|---|-------|--------|
| サービス提供責任者   | 門之園 由美  | 現場責任者 | 門之園 由美 |
| <p>令和元年度の実施総括</p> <p>令和元年度は現場責任者が変わり、新しいスタッフも加わっての新しい体制で取り組んできた。</p> <p>支援については、各利用者さんの担当スタッフを中心にお互いが意見を出し合い、支援の方向性の共有・支援グッズの見直しを行ってきた。また、新しいお出かけ先の提案を積極的に行い、余暇を広めることにも心がけてきた。また、法人内の事業所を併用されている方もいるため、とれきやんで使っているコミュニケーションツールをヘルパーとのお出かけにも取り入れてきた。</p> <p>日々の業務についても、現場責任者だけでなく各先輩スタッフから引き継ぎを行ってもらうことで、日々の業務の意味や目的を振り返ることも出来た。</p> |   |       |        |
| 今年度の成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当利用者の担当者会議に同席してもらうことで、関係機関の方との顔合わせ、情報共有など会議の目的や流れを知ってもらう機会を設けることが出来た。</li> <li>・新規の方2名の受け入れを行った。(法人内の他事業所を利用されていた方)</li> <li>・事務作業のマニュアルを元に各スタッフが責任を持って業務に取り組むことが出来た。</li> <li>・他のスタッフの仕事が溜まっている時に「何かお手伝いできることありますか?」とスタッフ同士で声を掛け合って業務に取り組める姿があった。</li> <li>・利用者さんの自転車利用の復活について生活支援部で会議を行い、復活にあたっての必要な事項の確認・本人への伝え方など共有・検討をしていき、自転車利用を再開することが出来た。</li> <li>・実際にどーや、とれきやんに支援に入ることで、ヘルプ以外の様子を知ることができ、本人理解をより深めることが出来た。</li> <li>・法人内の他事業所で使っているコミュニケーションツールをお出かけの中でも取り組むことが出来てきた。</li> </ul> |       |        |
| 事業所の課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの人数に対して利用者の人数が多いことから、個別支援計画作成の期日までに作成が間に合わないことがあった。</li> <li>・親御さんと支援についての面談の機会を設けることが出来なかった。</li> <li>・災害時のマニュアルの見直しをご家族の方とすることが出来なかった。</li> <li>・当初予定していた事業所内での研修ができないものもあった。</li> <li>・書類整理(過去の記録、現在利用されていない方の書類の保管場所など)が出来なかった。</li> </ul>  |       |        |

|  |   |       |       |
|--|---|-------|-------|
| 事業所名   | ゆうサポートセンターどーや   | 管理者   | 鈴木 大順 |
| サービス提供責任者  | 鈴木 大順   | 現場責任者 | 鈴木 大順 |
| <p>令和元年度の実施総括</p> <p>年間計画に沿い、実施することが出来た。利用者を積極的に受け入れることで黒字化することができた。</p> <p>今まで祝日休みが入り、休日が長くなってしまうと自傷など不安定になってしまう利用者さんがいたが、今年度のゴールデンウィークは長くなるため臨時開所を行った。ご家族の評判も良く、利用者さんも大きく不安定な様子になることなく過ごせている。安定した生活を支えるための視点はとても重要であると考えさせられる転機となった。ショートステイに二の足を踏んでいた方もこちらから声をかけることで利用に結び付き、利用者さんの生活の幅を広げ、ご家族のレスパイトにもつなげることができた。とれきさんと連携することで、安心して利用を開始することができたのも成果である。また、とれきさんの日中一時を利用している利用者さんが中卒でどーやで受け入れることになった。事前にとれきさんでの様子や学校での様子、家庭での様子などを把握したうえで受け入れをすることができ、ご家族もご本人も安心して利用することができている。</p> <p>依然として利用者同士のトラブルは多いが、環境面の調整やスタッフの配置の工夫などで何とか乗り切っている。緊急支援時、特定のスタッフで対応できるケースを減らしていくことも今後の課題である。</p> |   |       |       |
| 今年度の成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援部会で、ヘルプ、とれきさんと同法人の成人の部門で共通して利用している人がいる中、どーや利用者のショートステイとの併用事例が増え、お互いの情報を交換しながら行うことでスムーズな利用に結び付けることができた。また、日中一時を利用していた、中卒の利用者の受け入れがスムーズに行えた。今までの支援の方策などが有効に活用でき安定した受け入れにつながっている。</li> <li>・イベントなどの活動案をスタッフ全員が担当しながら進めることで利用者の理解の共通化を図ることができた。</li> <li>・ゴールデンウィークに祝日の営業を行ったことで、利用者さんの様子が安定し、ご家族も落ち着いて家で過ごすことができたとの報告があった。長期休暇であると自傷などを起こしやすい方もいるので祝日の営業について行うことができて良かった。</li> </ul> |       |       |
| 事業所の課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から利用者さん同士が出す“音”のことが課題となっている。今年度も環境調整を順次行っているが落ち着いて利用するまでに至っていない。</li> <li>・スタッフの記憶頼りになってしまっているところがあるので、シートの整理や行ったことを次に生かせるようなファイリングやシートの活用が必要である。そのための事務時間の確保やマニュアル化が必要である。</li> <li>・活動のマンネリ化の面も出ている。体を動かすような日常活動を見つけていきたい。</li> </ul>   |       |       |



|  |  |       |       |
|--|--|-------|-------|
| 事業所名   | ゆうサポートセンター<br>とことこ   | 管理者   | 十都 敦子 |
| 児童発達支援管理責任者  | 十都 敦子  | 現場責任者 | 十都 敦子 |
| 令和元年度の実施総括   |  |       |       |
| <p>令和元年度は、利用児 14 名(内、卒園児 6 名、令和 2 年度継続利用児 8 名)</p> <p>昨年と同様 2 つのクラスに分けて小集団での療育を行った。感覚遊びを日常の中に多く導入し、対大人との丁寧なやり取りが中心となるクラスと、年間通して忍者活動を取り入れ、対大人をベースに子供同士の小集団活動を中心としたクラスの 2 クラス。特に、子供の似た課題に合わせた、興味関心を取り入れた活動の設定、個別に分かる手がかりを増やすことに力を入れ、意欲、積極性、柔軟性を育むことに力を入れた。保護者に対して、保護者会での勉強会、定期面談以外でも必要に合わせた面談の設定、サポートブック作成を一緒に行うことで子ども理解を深められるよう意識をした取り組みを行った。</p> |  |       |       |
| 今年度の成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスで団結し、チームで協力しながら支援が行えたことで、活動内容が豊かになり、様々な経験の機会を子ども達に提供することができた。</li> <li>・子どもが持っているスキル、興味関心を活かしたコミュニケーションを大事にすることで、確実なコミュニケーションがとれる様になり、子ども達の意欲につながった。</li> <li>・好きな活動を共にする経験を積み、クラスごとに子ども同士が意識し合う関係性ができ、対大人をベースに、対子どもの関係づくりも豊かにできた。</li> <li>・担当が責任を持って担当児の支援、ご家族支援を行えたことで、保護者と情報共有ができる機会を多く取ることができた。</li> </ul> |       |       |
| 事業所の課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントが偏りのあるものになりやすいため、定期的に日案の中に入れていく等、新しいシステムの構築が必要。</li> <li>・業務時間内に終われないことがあること、引き続き、療育準備のための事務時間の確保のため、業務分担、業務の効率化のための記録方法と共有の仕方、各様式等の見直しが必要。</li> <li>・自由時間の遊びの広げ方、提供の仕方等、引き続き、全スタッフで積極的に取り組み、子どもの余暇時間の過ごし方を保護者と共有し、ご家庭へも般化する機会を増やしていく。</li> </ul>  |       |       |

|  |  |       |        |
|--|--|-------|--------|
| 事業所名   | 豊川市児童発達支援施設<br>ひまわり園   | 管理者   | 高瀬 佐代子 |
| 児童発達支援管理責任者  | 森川 せつ子 丸山 尚美   | 現場責任者 | 高瀬 佐代子 |
| 令和元年度の実施総括   |  |       |        |
| <p>令和元年度ひまわり園は、管理者 1 名、児童発達支援管理責任者 2 名体制とし、管理者が全体の管理や対外関係、児童発達支援管理責任者中心にコースの各担当が主体的に療育を行った。通園期間の中で子どもには様々なあそびを、保護者には必要な学びと情報提供を行うことができた。保護者が記入する KIDS とスタッフと保護者と一緒に確認をする 7 つのキーポイントをもとに個別の支援計画を作成し面談を実施し、保護者と子どもの現状や課題を共有し、保護者に寄り添い丁寧に聞き取り関わることで、自分の子どもにあった子育ての気づきや、少しでも育児に前向きになれる気持ちへとつなげることができた。学習会や茶話会では情報共有や同じ立場で話せる環境作りをし、保護者同士のつながりの場を作るとともに、発達や子どもに関わるコツを学ぶ機会を作り、進路や療育機関などの情報提供を行った。保育所等訪問事業は年間 129 件の訪問を実施することができ、会議や訪問時にお子さんの心の声や対応について共有できた。</p> |  |       |        |
| 今年度の成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会や茶話会にコーススタッフが入ることで保護者の日ごろの悩みやおうちでの取り組みを知り、面談や日頃のコミュニケーションで共有することができた。</li> <li>・個別のペアレントトレーニングや、スモールステップで親子分離・集団参加など、できる範囲で個々のニーズに合わせた個別の対応を行った。スタッフが、焦らず長い目で見ながら、常に一人ひとりの子どもと保護者のことを考え対応することで、親子が頑張って通園し続けることができた。</li> <li>・移行支援では、情報提供を行うとともに、可能な範囲で事業所見学に同行し、見学時のお子さんの姿や事業所の療育内容について共有し、今後の方向性を一緒に考えることができた。</li> <li>・保健センターの健診事後教室、訪問療育、入園前に行う体験保育へのスタッフ派遣や、面談やキーポイントの聞き取り、園訪問では、丁寧な OJT を心掛けスタッフの支援力 UP へとつながった。子育て支援課、保健センター、療育施設、相談支援事業所など他機関との連携を図った。業務の効率化、休憩の確保に努めた。</li> </ul> |       |        |
| 事業所の課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コースミーティングを定期的に行うことができなかった。</li> <li>・通年コースではクッキングや遠足、誕生日のお祝いなど地域の集団で経験するような体験は好評であったため、より年齢や発達に応じた生活体験の提供ができると良い。</li> <li>・業務の負担や残業があり、業務分担の見直しが必要。</li> <li>・保育所等訪問支援事業では、情報共有をより丁寧に行っていきたい。</li> </ul>  |       |        |

|  |  |       |       |
|--|--|-------|-------|
| 事業所名   | ゆうサポートセンター<br>いまーじゅ  | 管理者   | 大橋 美保 |
| 児童発達支援管理責任者  | 大橋 美保  | 現場責任者 | 大橋 美保 |
| 令和元年度の実施総括   |  |       |       |
| <p>令和1年度は、卒業児:5名(内、週2利用が1名)、継続利用児:4名(内、週2日利用が1名)。</p> <p>親子通園施設として、保護者にも一緒に通っていただき、子どもの心の声、行動の理由をスタッフと一緒に考えることを通じて、保護者が子どもの姿を理解する療育を行った。特に今年度は、子育てに困難さを抱えている保護者に対して、より個別かつ丁寧な伝えを意識し、困り解消シートを一緒に記入したり、家庭の中でより取り組みやすい家庭用プログラムの形式への見直しに力を入れた。</p> |  |       |       |
| 今年度の成果   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフが働きやすいように、業務改善・効率化をすること:記録用紙など、少しでも記入しやすいように、スタッフ間で相談しあい形式を作り直した。課題や玩具置き場などを整理して、使いやすいように工夫した。</li> <li>・母以外の家族の協力体制作り:来所時にスタッフから積極的に声掛けしたことなどで他の家族の実際の来所につながった。また、家庭用プログラムや個別支援計画、子どもとのかかわり方のコツなどを母が他の家族に伝えることで、来所にはつながらなくとも、ご家庭の中で他の家族が子育てに協力してくれる姿が増えた。結果的に保護者に対するアンケートの中でも、『母以外の家族に良い変化はあったか?』の問いにすべての保護者が肯定的な意見を返してくれるなど、少しでも母以外の保護者の協力体制を作れたのではないかと考えている。</li> <li>・活動のレパトリーや幅を広げる:全体向けには、いまーじゅ近くの施設に出かけ運動できる機会を作ったり、個別活動としてクッキングやお茶休憩の時間等、できる範囲での新たな活動を提供した。</li> </ul> |       |       |
| 事業所の課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆうサポートセンターが多機能型事業所あることから、いまーじゅに主で勤務するスタッフが少なく、業務の分担をしきれないところがあるため、スタッフの配置や業務分担について新たなやり方を模索する必要がある。また、今後複数スタッフで業務分担をするに伴い、情報共有の仕方や、整理整頓を明確に行い、どのスタッフがどの業務にあたっても分かりやすい環境設定やマニュアル作りが必要となる。</li> <li>・少人数で個に合わせた活動に特化しているため、児童が一般的に経験するであろうイベント活動の経験をする機会や、新たな活動を提供しにくい。</li> <li>・現在は、スタッフが子どもに関わり、保護者には見て学んでいただく機会が多い。今後、いまーじゅの中でも実際に保護者が子どもに対応する機会を増やすことで、保護者自身が練習できる機会をより多く作りたい。</li> <li>・業務の効率化のための、記録等書類の効率化を引き続き進めていく。</li> </ul>   |       |       |

|   |   |       |       |
|---|---|-------|-------|
| 事業所名  | ゆうサポートセンター<br>ほっとそと   | 管理者   | 大橋 美保 |
| 児童発達支援管理責任者   | 大橋 美保   | 現場責任者 | 大橋 美保 |
| 令和元年度の実施総括  |   |       |       |
| <p>昨年度に引き続き、学校での適応困難な児童が数名利用につながった。今年度は特に、母子分離の不安から、ほっとそとの活動場所に母子分離で通えない事例が数例あったが、まずは母がいる状況で無理のない範囲で活動できた経験を積み上げることで、母子分離でき集団での活動につながった。</p> <p>1年度は、卒業児:3名、1年度の継続利用児:28名(内週2日利用が2名、隔週利用1名、月に1日の利用1名)</p> |   |       |       |
| 今年度の成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の構造化、整理整頓:お手伝い活動の構造化、玩具の棚の整理など、子どもたちが使う場所の構造化を行った。また、倉庫の整理や準備物のチェックボードなど、日々の療育準備を効率化するための構造を作った。</li> <li>・防災計画を押し進める:非常災害対策計画の見直し、避難訓練の実施、必要備蓄の確認、防災グッズの購入を行った。</li> <li>・家族支援の実施、システムの改善:子どもの送り迎え時に、うまくいった環境設定や伝え方などの工夫を保護者に丁寧に伝えるとともに、ご家庭での相談ごとに応じ、必要であれば個別に時間を設定した。保護者が相談しやすいように、相談シートの見直しに着手した。</li> <li>・必要なことならについて研修を行う:緊急時の対策(嘔吐、けいれんなど)について、応用行動分析についての研修を行った。また、ミーティングの中で支援のロールプレイを行い、スタッフ全体が共通認識を持って支援に関われるように工夫した。</li> </ul> |       |       |
| 事業所の課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほっとそととしての研修機会が少ないため、子どもにどのように関わるのか、スタッフ全体としての共通認識を持ちにくいことがある(応用行動分析、褒め方、冰山モデル、パニック時の対応、等)。</li> <li>・事業所の構造化の見直しが必要などところがある(自由遊びの玩具の遊び方、パニック時の発散エリア、お手伝い活動のご褒美、等)。</li> <li>・主活動のある程度固定化することで、子どもたちが自信を持って活動できる姿が増える一方、モチベーションの面から考え直す必要性もある。</li> <li>・丁寧な支援をしようと考えていることで、業務が煩雑で多くなってきている。業務の分担や行うべき業務について見直しを行うことで、スタッフが負担なく仕事を続けられる工夫が必要</li> </ul>  |       |       |

|   |  |       |       |
|---|--|-------|-------|
| 事業所名  | ゆうサポートセンター<br>じょいん   | 管理者   | 大橋 美保 |
| 児童発達支援管理責任者   | 大橋 美保  | 現場責任者 | 太田 章乃 |
| 令和元年度の実施総括  |  |       |       |
| <p>令和元年度は、年度途中で職員配置の変化があり、訪問支援員一名が小学生を対象として学校訪問を実施した。市内 26 校中 23 校で訪問支援を実施した。訪問支援員一名で訪問を行うため、必要性に応じて訪問回数を変化させながらの実施となったが、保護者アンケートからは今年度の体制変化に伴う不満、不安は特に上ってはこなかったため、一定の支援を届けることは出来ていたと考えている。</p> |  |       |       |
| 今年度の成果  | <p>今年度の重点目標から、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・契約児にとって必要なタイミングでの訪問の確保:ギリギリではあるものの、優先順位をつけてメリハリのある訪問を実施でき、必要なところには訪問出来たと考えている。</li> <li>・学校教育課との連携強化:学校教育課にとっては一民間事業所であるため、昨年度同様のやりとりはあったものの、残念ながら連携強化とはいかなかった。</li> <li>・訪問支援員のマニュアル作り:新体制での必要な訪問実施を確保するのに集中してしまい、まだ形にすることは出来ておらず、次年度の課題として残った。</li> <li>・法人内の他事業所のスタッフと共に学校訪問実施:ほっとそっとスタッフと、とことこスタッフに学校訪問に帯同してもらい、学校との連携の取り方などお伝えした。</li> </ul> |       |       |
| 事業所の課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き訪問支援のマニュアル作りを進めていくこと</li> <li>・学校訪問に複数利用児について訪問することで、話をすべき先生の数が多数になってしまい、コミュニケーション不足になってしまったところもあったため、1 回の訪問に行う訪問児の数の整備を行うことや学校側への説明の機会の確保の必要があると感じている。</li> </ul>   |       |       |

|   |  |       |        |
|---|--|-------|--------|
| 事業所名  | 相談支援 Kids ふぁ～すと  | 管理者   | 荻野 ます美 |
| —————   | —————  | 現場責任者 | 荻野 ます美 |
| <p>令和元年度の実施総括</p> <p>令和元年度は常勤 1 名と非常勤 2 名の合計 3 名の職員で事業を行った。年度当初は相談支援専門員が昨年度より 1 名減ったため新規の受け入れはストップしていたが、新しく配置された職員が 11 月に相談支援専門員の資格を取得し、12 月から 3 名体制となったため、1 月より新規の受け入れを再開した。</p> <p>3 月の移行時期に相談依頼が重なり、新規契約が集中した。新型コロナウイルス防疫対策のため保育園での担当者会議ができず、法人本部で行ったものが多かったが、年度内に制度上必要な手続きを終えることができた。</p> <p>事業所としては初めて特別支援学校から生活介護へ移行する利用者さんの移行支援があったが、学校や基幹相談の協力もあり、無事に移行支援をお手伝いすることができた。</p> |  |       |        |
| 今年度の成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童から成人への切り替えがあったが、滞りなく進めることができた。</li> <li>・いくつかのケースについて、病院、行政、基幹・委託の相談支援事業所と連携・相談しながら支援を行うことができた。</li> <li>・新人職員にインテーク(初回面談)や担当者会議に同席してもらう機会がもてた。</li> </ul> |       |        |
| 事業所の課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉相談や基本相談を常勤職員 1 名のみで行っている。</li> <li>・児童に特化しているが、高等部在籍の利用者から継続の希望がある。</li> <li>・経過記録が紙ベースの為、共有しにくい。</li> </ul>   |       |        |

|   |  |       |       |
|---|--|-------|-------|
| 事業所名  | ゆうショートステイ<br>とれ☆きゃん  | 管理者   | 豊田 和浩 |
| _____   | _____  | 現場責任者 | 豊田 和浩 |
| <p>令和元年度の実施総括</p> <p>とれ☆きゃん 4 年目となり、5 名のスタッフで短期入所・日中一時支援を行った。また、生活支援部としてヘルパーステーションや他部署からの応援を受けながら受け入れを行った。</p> <p>短期入所では、定期利用者を 10 名から 12 名に増やし受け入れと収益のアップを図った。黒字化が見込めるところまで来ている。</p> <p>日中一時支援は、小中学生で放課後等デイサービスを利用していない方を対象とし、通常 3 名、長期休暇には 10 名の利用があった。安定的に過ごすことができるように環境等の調整を行っている。日中一時については、単価が非常に低いため採算性の確保のために放課後等デイサービスへの移行を視野に進めていたが、施設基準や人員配置の課題が多く、できなかった。3 月以降新型コロナウイルスの為に長期休暇が長くなっているが、他部署の応援を受けながら行えている。</p> |  |       |       |
| 今年度の成果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どーやなどと協力し、利用者を増加することができた。利用者を安定的に受け入れることができた。</li> <li>・利用者のコミュニケーション支援に積極的に取り組めた。</li> </ul>            |       |       |
| 事業所の課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊勤務のできる職員の確保・長期休暇含む日中一時の職員配置</li> <li>・変則的な勤務である事から、カンファレンスやミーティングの時間の確保</li> <li>・赤字経営からの脱却</li> </ul> |       |       |

法人運営のため、総会、理事会等の準備・運営を行った。法人の事務局として会員の管理、会報の発行、法人内の経理・労務管理などを行った。

- 現場責任者会議では、議事録を作成し出席できない者への共通理解を図った。
- 新型コロナウイルス関係の休業などの対応を行った。
- 会員の顧客管理の方法を見直した。
- 特定処遇改善の加算取得を行った。

常勤兼務 1 名、非常勤専従 3 名

---

## 会員動向

令和元年度会員の動向は以下の通り。（令和 2 年 3 月 31 日現在）

近年会員数の減少がみられるため、ゆうの活動を知っていただき、会員仲間を増やしていくことが課題である。

なお、公的な福祉サービスのみ利用者は会員数に含まれていない。

|      |                                       |
|------|---------------------------------------|
| 正会員  | 29 名                                  |
| 利用会員 | 158 名（利用会員 120 名 家族会員 31 名 団体会員 7 団体） |
| 賛助会員 | 51 名                                  |

---

## 会議等の開催

|        |   |
|--------|---|
| 理事会の開催 | 5 月 20 日、6 月 2 日、10 月 7 日、12 月 23 日、3 月 9 日 |
| 総会の開催  | 5 月 30 日                                    |